

■11月19日

エアアジアX (LCC)、中部国際空港へ乗り入れ、L/F80%以上を目指す

エアアジアXは来年3月17日から、中部国際空港とクアラルンプールを結ぶ直行便を週4便就航すると発表した。アズラン・オスマンラニ最高経営責任者(CEO)が18日、名古屋市内で明らかにした。

現在同社は羽田、関空—クアラルンプール線を運航しており、ロードファクターは80%以上。エアアジアXによると、中部線でも同様の数字をめざす考え。運航機材はエアバスA330型機で、当初は週4便だが、将来的にはデイリー化も視野に入れていきたいとした。

販売はウェブサイトでの直販がメイン。ただし、一部の座席は旅行会社経由のパッケージツアーとして販売していく予定だ。

なお、料金は平均で1万6千～1万9千円。就航を記念して、19～24日の間に来年3月17日から8月5日の便を予約すると、エコミークラスで片道6990円となるキャンペーン運賃を販売する。

なお、セントレアに就航するLCCで国際線を運航するのは韓国のチェジュ航空に次いで2番目。同じグループだったエアアジア・ジャパン(現パニラ・エア)は今年9月に中部空港から撤退している

(中日新聞)11/18

<http://www.chunichi.co.jp/s/article/2013111890115959.html> (->

<http://www.chunichi.co.jp/s/article/2013111890115959.html>)

(日経)11/18

http://www.nikkei.com/article/DGXNASDD1804J_Y3A111C1EB2000/ (->

http://www.nikkei.com/article/DGXNASDD1804J_Y3A111C1EB2000/)

(トラベルビジョン)11/18

<http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=59596> (-> <http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=59596>)

国交省、モンゴルと航空当局間協議、成田発着増便枠を協議

国交省は18日、日本とモンゴルの航空当局間協議を11月20日-21日、東京で開催すると発表した。

国土交通省航空局によると、モンゴルとの航空協議は2005年に設定されて以来、2005年の協議では成田空港への増便を希望したモンゴル側に対して、日本側では成田の発着枠に余裕がなく、継続協議となっていた。

一方、オープンスカイ協定の締結や羽田空港深夜早朝時間帯の路線設定などは見送られる公算が大きい。

(トラベルビジョン)11/18

<http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=59597> (-> <http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=59597>)

(日刊航空)11/19

<http://www.da-news.co.jp/xhp/2013-1119-03.pdf> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/2013-1119-03.pdf>)

(国交省プレスリリース)11/18

http://www.mlit.go.jp/report/press/kouku03_hh_000220.html (->

http://www.mlit.go.jp/report/press/kouku03_hh_000220.html)

ジェットスターCEO、ジェットスター・ジャパン(LCC)の経営に自信

(NNA ASIAによると)

カンタス航空の格安航空子会社ジェットスターのハドリチカ最高経営責任者(CEO)はこのほど、日系企業との合併事業ジェットスター・ジャパンについて、向こう3～4年以内に収支を合わせられるとの見通しを明らかにした。カンタスと日本航空による資本投入により、事業成長を実現できると自信を示している。オーストラリアンが報じた。

カンタスは先月末に、ジェットスター・ジャパンが実施した第三者割当増資において日本航空とともに約6,000万豪ドル

(約56億円)ずつを出資した。ハドリチカCEOはこれについて、「市場開拓を確実に進めるための投資で、長期的な将来を見据えたもの」とコメント。損益分岐点に到達する時期に関しては、「予定していた通り、3~4年以内には実現できるだろう」と話した。

同CEOはまた、格安航空会社によるシェアが全体の5%である日本市場で、初年度である今年に利用者数を9%増やすことができたこと述べ、「格安航空分野が大きく成長する可能性は無限にある」との見方を示した。

(NNA ASIA)

<http://news.nna.jp/free/news/20131119aud004A.html> (-> <http://news.nna.jp/free/news/20131119aud004A.html>)

台湾航空3社、日台路線拡大で新機材購入増加

(琉球新報によると)

台湾の航空3社(中華、エバー、復興)は、2008年からの中国直航路線の解禁や日本とのオープンスカイ協定の実現、国際航空連盟への加入などにより、大幅に路線を拡大した。利用者的大幅増に対応するため、いずれも新機材の購入に追われている。

特にエバエアーと中華航空の路線は数十倍規模で拡大しており、エバエアーは23カ国54路線から195カ国1328路線に、中華航空は80カ国224路線から178カ国926路線と激増している。

そのため、エバエアーは新機材にA321など35機を購入。復興航空も32機を購入した。中華は既に22機を購入しているが、来年はさらに24機の購入を予定している。台湾の好況に海外のLCC参入も続いており、これまでの3社から12社に増加。特に日本とシンガポール路線が激戦状態だ。

(琉球新報)11/18

<http://ryukyushimpo.jp/news/storyid-215449-storytopic-1.html> (-> <http://ryukyushimpo.jp/news/storyid-215449-storytopic-1.html>)

ボーイング社、777型機、受注総額は約1000億ドルの大量受注—ドバイ航空ショー

(ロイターによると)

米ボーイングは17日、ドバイの航空ショーで新型旅客機777型機を正式に発表し、航空会社4社から259機を受注したことを明らかにした。

マックナーニ会長によると、リスト価格での受注総額は約1000億ドルで、同社にとって過去最大規模となる。受注はエミレーツ航空の150機、カタール航空の50機などで、エティハド航空は以前に25機の発注を明らかにしている。

このほかにボーイングは、狭胴型機100機以上を格安航空会社のフライドバイ(flydubai)から受注した。

(ロイター)11/18

<http://jp.reuters.com/article/topNews/idJPTYE9AH00Z20131118> (-> <http://jp.reuters.com/article/topNews/idJPTYE9AH00Z20131118>)

エミレーツ航空、A380型も50機発注

エミレーツ航空は、開幕したドバイ航空ショーで、ボーイングとエアバス合わせて990億ドル(約9兆9300億円)相当を発注した。

ボーイングによると、そのうちの同社の受注分は、777X型機150機、777-8X型機35機、777-9X型機115機など、総計556億ドル(約5兆5700億円)にのぼるといふ。

さらにエアバス社に対しても、2階建ての超大型旅客機であるA380型機50機、200億ドル(約2兆円)相当の発注を行っ

た。エアバス社にとっては、同機を受注したのは今年初めてのことだという。

(AFP)11/18

<http://www.afpbb.com/articles/-/3003462> (-> <http://www.afpbb.com/articles/-/3003462>)

エティハド航空、A350XWB 50 機、A320neo 36機、A330-200F貨物機1 機発注

エアバス社は17日、アラブ首長国連邦の(->)エティハド航空が、同社の機材刷新計画の一環でA350XWBを50機(40機のA350-900と10機のA350-1000)、A320neoを36機(26機のA321neoと10機のA320neo)、A330-200F貨物機を1機発注したことを発表した。

(日刊航空)11/19

<http://www.da-news.co.jp/xhp/2013-1119-05.pdf> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/2013-1119-05.pdf>)